

カリキュラムツリー

ディプロマポリシー（学位授与方針）DP



- DP1. 最適な医療の提案**
科学的な思考、及び医療に携わる者としての倫理と使命感を背景とする薬学的知見に加え、医療政策や医療経済に配慮することで、少子高齢化や技術革新等の社会の変化に対応し、患者本位の医療を提案する。
- DP2. 地域との連携と貢献**
地域に貢献できる薬の専門家の役割を理解し、患者・生活者とそれらを支える専門職との円滑な意思疎通と信頼関係を構築する基本的能力を有する。
- DP3. 福祉向上のための支援**
人に対して効果をもつ化学物質（医薬品、医薬部外品及び化粧品等）の性質並びに法規制を考慮し、人々の福祉のためのセルフケアを提案する。
- DP4. 高度な専門知識の修得**
広く自然科学の知識を備え、高度な薬学の知識を体系的に身につける。
- DP5. 知の探求**
最新の知見を通じて課題を自ら見出し、科学的思考に基づいた解決策を模索する。
- DP6. 鍛錬と継承**
社会に貢献できるように、生涯にわたり知識と技術を磨き、次世代を担う人材を育成する意欲と行動力を有する。
- DP7. 危機管理（クライスマネジメント）能力の活用**
薬学的知見を背景としたクライスマネジメント能力に基づき、多職種と連携しながら多様な状況に対応する。

カリキュラム構成

千葉科学大学のカリキュラムは、一般基礎科目と8つの専攻科目から構成されています。専攻科目は学部の基礎となる「学部基礎科目」、「物理・化学系薬学科目」、「生命薬学科目」、「社会薬学科目」および専門分野において必要とされる「医療薬学科目」、「キャリアアップ科目」、「実習科目」、「総合科目」から構成されています。このカリキュラムツリーでは、各科目を一般基礎科目と8つの専攻科目に分類しA~Iのアルファベットで表現しました。また、各科目とDPの関係性を示すため、DPに相当する色つきの矢印にA~Iに分類した科目を被せました。また、科目には必修科目、選択科目があり、それらを「◎：必修科目」、「○：選択科目」で表現しました。科目名の後にカッコ書きで単位数も記載したので、進級・卒業要件と共に参考にしてください。

- A 学部基礎科目
- B 物理・化学系薬学科目
- C 生命薬学科目
- D 社会薬学科目
- E 医療薬学科目
- F キャリアアップ科目
- G 実習科目
- H 総合科目
- I 一般基礎科目



薬学共用試験

6年制薬学教育では薬剤師としての実践能力の習得、医療者としての倫理観や使命感の醸成を目指す。経験豊富な薬剤師の指導・監督の下で、5年次以降に病院・薬局などの医療現場での実習が行われます。しかし、薬剤師資格を持たない薬学生が実習を行うには、学生の知識・技能・態度が一定のレベルに到達していることを保証する必要があります。そのため試験が薬学共用試験です。薬学共用試験センターは、実習生を担う施設や社会に対して「実習生の質的保証をする」という重要な使命のもとに、中立公平な立場で試験を実施しています。

薬学共用試験は、全国の大学で統一された試験であり、主に知識を評価する客観試験 CBT (Computer-Based Testing) と、実技を通して主に技能・態度を評価する客観的臨床能力試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination) の2種類から成り立っています。

<参考>
http://www.phcat.or.jp/?page_id=258

進級・卒業要件

進級するためには、進級要件を満たさなければなりません。進級要件を満たしていない場合は、留年することになります。6年以上在籍し、卒業要件を満たし、卒業単位数を修得した場合、卒業となり学士が与えられます。

- 卒業要件**
一般基礎科目 16単位以上
専攻科目 必修科目を170単位以上（必修科目をすべて修得）
- 6年次進級要件**
一般基礎科目 16単位以上
専攻科目 必修科目を130単位以上
- 5年次進級要件**
一般基礎科目 16単位以上
専攻科目 必修科目を130単位以上
- 4年次進級要件**
専攻科目 80単位以上
- 3年次進級要件**
専攻科目 30単位以上
- 2年次進級要件**
専攻科目 8単位以上

一般基礎科目のカリキュラムツリー（1～3年次）

各学年の一般基礎科目の分類（I）にて科目とDPの関係を図示したものです。

専攻科目のカリキュラムツリー（1～6年次）

各学年の専攻科目の分類（A～H）にて科目とDPの関係を図示したものです。